



ぴっぴだより No.10 2014.12.19

今年も11月始めの3連休で ママと子どものキャンプ「ママチルキャンプ」がバグナルキャンプ場で行われました。各地から集まったスタッフと子どもを連れて参加して来られたママたちと
 いろんな思いを胸に集まりました。

スタッフとして「ママチルキャンプ」に参加となるのは3回目です。初めて参加する時「私に出来ることはあるのかな...」と自信が持てない自分があったことを覚えています。「でも
 きっと突りはあるはず!」と思いきって参加させていただきました。

ママチルスタッフには、ママたちが森で過ごすプログラムを作り出す「ママプロスタッフ」と
 二泊三日の食事を作る「キッチンスタッフ」と ママたちが森で過ごしている間、子どもたちの
 保育を担当する「保育スタッフ」と いろんな役割りを持ってキャンプに関わります。

ただ自分に与えられた役割りをこなすだけではありません。お風呂の準備で手間取
 っているママを見つけたら「手伝いますよ」「大丈夫?」と色々お話しで声をかけるスタッフも
 いっぱい。子どもたちが遊び始めたころに自然に入っていく仲間になるスタッフがいっぱい。
 また差し入れの物でちょちょいと料理し、メニューに一品を追加してしまうスタッフもいます。

ひとりがすべてのことを出来なくてはいけなのではなく、それぞれが得意なことを
 活かし、それぞれが自分に出来ることを精一杯やっています。私もその中で気が付い
 たことを精一杯、働き、何とかスタッフの一員に...仲間入りできたような気がします。

ママチルは事前の打ち合わせをほとんどしていません。当日までパソコンメールで連絡をやりとり
 するだけです。しかしこの3日間、思いの合った動きが出来てしまいます。それは

「ママたちが自分に居る時間をつくること。森でちょっとひと休みさせてあげたいな...」
 とスタッフ全員が同じ目標、同じ先を見つめて 自分に出来る精一杯の働きをして
 いるからでしょう。ママチルキャンプ後の達成感と言ったら何とも言えませんでした。

年に一回しか会わないはずのスタッフだけ、なじみの深い仲間のような...いかに
 通じる仲間になっているのです。思った以上に突りのある時間を過ごすことが出来た
 のです。私はこの頃、その時、その時、自分の出来る限りを尽くしているの
 だから出来ないことがあってもいいんだ。失敗してもいいんだ。と思うようになり

ました。そう思うようになったら「人と同じように出来なくてはいけなの。」と落ち込む
 ことが多かったのが 何かあるごとに「今、私に出来ることはなんだろう」という
 考えかたに変わりました。自分で考えて自分で行動することの大膽さを学ぶ
 ことが出来たのです。

ぴっぴに会い、ママチルキャンプに会い、みんな違っていい。大人も子ども
 ありのままの自分でいいと受け止めてもらえることで「自分はこれでいいんだ」
 「自分の得意なこと、得意なことを勝負しよう。」と 思うことが増えてきたのです。

自分なりに少しづつ歩めること...自分を見つめ直す時間...たくさん気付く...
 学べること...すべてに感謝し 一年を終えることを嬉しく思います。

どうぞよいお年をお迎え下さい。来年もよろしくお願ひいたします。

：美穂

おおきくみだより

あるとても寒い朝、地面も何かが凍っていました。うすら積もった雪を集めて、かき氷
 を作っている人、霜柱をまぜてカーバンを作っている人...寒い日の森には見かけがえのないものが
 あちこちにありまふ。先週作った色水が乾き、それはきれいな緑色の氷の塊に変わって
 ものと、シートの上にガラスのよう美しい氷を見つけた。呉瑛・奏・平蔵・行人くんたち。その
 氷を砕いて割って 宝石やさんがお話ししました。七羽木に木の板を渡して 湖に割って
 緑色や透明の氷を並べて、木の葉のお金で買うこともできますが、その葉で作ったくじびきを
 引いて。当たった人は素敵な宝石をもらうこともできます。そのくじびきのやり方を話し合っ
 ていた時、当たった人が出たら この一番大きいからあげよう、と平蔵くんが提案しました。奏くん
 行人くんは自分たちがきれいで気に入った順番に宝石を湖に並べて、緑のきれいなやつ
 から一筆買おう...と主張。「でもこれがきれいなんでしょうか、その人が気に入るかわからないよ。大きい方
 が喜ぶよ」と平蔵くんも譲りません。「こんなきれいな宝石だから、みんなほしいって言うでしょ!」と二人
 に主張され、とうとう平蔵くんはもういっしょに店を飛び出してしまいました。ちょっときつて言いきかたは、
 と顔を見合わせて困っている様子の奏くんと行人くん。氷を並べていた呉瑛くんは話し合いには
 参加していませんでしたが、その内容がわかっていくらしく、「くじびき引いた人に、当たり前です、
 どれがほしいですか?って聞いてみたら?」と新しい提案をしています。「平蔵くん戻ってきたら聞いてみよ。」
 大くくりのみんなは「平蔵くん遊ぼう!」と自然に新しい仲間に加わって平蔵くんは声を
 かけ、日ごとく遊びの時間を積み重ねています。様子を伺っている中で思い通りに行か
 ないこともある...という体験を積んでいる平蔵くんは、その時、みんなから離れて森の中で
 一人気もちを整えていることもあります。でも友だちを信じて待っている仲間がいて、その
 仲間との遊びが楽しく見かけがえのないからと、気持ちを整えて後はまた遊びの準備にうつり戻
 っている平蔵くん。この時、再び森を歩いてきて、呉瑛くんが「くじびきのやり方変えたから。」と
 話しかけると「どうやることにしたの?」と自然に 宝石やさんに戻っていました。

一方同じ日、理央ちゃんが泣いて「どうしたの?」と聞くと「顔に枝が当たって痛かった」と
 目の下に傷ができています。泣き止むと「くんが投げた枝が当たって痛いって!」
 くんはわざと泣いていないし、もう痛くないから大丈夫。」と泣き止むに語りかけられて
 くんは「やられて痛かった、という言い方ではなく、くんはわざと泣いていないから大丈夫。」と
 毅然と話す理央ちゃんの姿には、友だちを信じている清々しさがありました。

仲間を信じて待つ、友だちを信頼して自分の気持ちに折り合いをつける...毎日の遊び
 の中で少しずつ、少しずつ積み重ねてきたものは、揺るぎのない気持ちに変わっていくんだな。
 と感じられる、2学期後半です。

：美和子

皆さまのご協力をいただき、今学期も無事に終えることができました。
 ありがとうございます。ご家族皆さまが感謝に満ちたクリスマスをお過ごし
 のように、そして新しい気持ちで新しい年をお迎え下さい。皆さまのご家
 族にとってよい新年でありますように。

・三学期の保育日.

	月	火	水	木	金
1月					9. 土
	成人の日	13 土	14 土	15 日	16 土
	19 日 ※1	20 土	21 土	22 日	23 土 ※2
	26 日 ※3	27 土	28 土	29 日 ※4	30 土
2月	2 日	3 土	4 土	5 日	6 土
	9 日	10 土 ※5	建国記念の日	12 日	13 土
	16 日	17 土	18 土	19 日	20 土 ※6
	23 日	24 土	25 土	26 日	27 土
3月	2 日	3 土	4 土	5 日	6 土
	9 日	10 土	11 土	12 日	13 土
	16 日	17 土	18 土 ※7 ※8		

- ・ 2015年度 入園の集いは 4月8日(水)です。
- ・ 1月・2月 ×2ハウス改修工事により、おにこにこへは、3月までお休みです。
- ・ アートは、厳しい冬の気象状況により、毎年3学期は、お休みになります。
- ・ お休みなく お料理日。 1月22日(木)

- ・ モンベル購入について
長野県野外保育連盟からモンベル商品を購入頂き 代金のうち 5%を連盟へ 5%をびびへ ご協力いただきました。 ありがとうございます。
これからは ライジグフィールドさん 経由での 購入といたします。 ありがとうございます。

二学期のエピソード 少しだけ……

- 敬称略
 - 日いち順
- ② スタッフ ③ はんり
- ④ 松井り ⑤ ーり ⑥ 100%
- ⑦ かん

- ④「か昼食前から涙。『食べない』『ママかい』」⑤「みんないっしょに淋しくなっちゃう」と不思議な顔。⑥「ママが好きな淋しくなっちゃったたい」⑦「おか〜。どうすればいいかな〜」⑧「泣きやんだらラッキーで食べればいいわ!」⑨「お母さん!」⑩は、②と一口ずつ食べるうちに、気持ちも落ちついていった。⑪「ほら、泣きやんだ。よかったわ!」
- ⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㋀㋁㋂㋃㋄㋅㋆㋇㋈㋉㋊㋋㋌㋍㋎㋏㋐㋑㋒㋓㋔㋕㋖㋗㋘㋙㋚㋛㋜㋝㋞㋟㋠㋡㋢㋣㋤㋥㋦㋧㋨㋩㋪㋫㋬㋭㋮㋯㋰㋱㋲㋳㋴㋵㋶㋷㋸㋹㋺㋻㋼㋽㋾㋿㌀㌁㌂㌃㌄㌅㌆㌇㌈㌉㌊㌋㌌㌍㌎㌏㌐㌑㌒㌓㌔㌕㌖㌗㌘㌙㌚㌛㌜㌝㌞㌟㌠㌡㌢㌣㌤㌥㌦㌧㌨㌩㌪㌫㌬㌭㌮㌯㌰㌱㌲㌳㌴㌵㌶㌷㌸㌹㌺㌻㌼㌽㌾㌿㍀㍁㍂㍃㍄㍅㍆㍇㍈㍉㍊㍋㍌㍍㍎㍏㍐㍑㍒㍓㍔㍕㍖㍗㍘㍙㍚㍛㍜㍝㍞㍟㍠㍡㍢㍣㍤㍥㍦㍧㍨㍩㍪㍫㍬㍭㍮㍯㍰㍱㍲㍳㍴㍵㍶㍷㍸㍹㍺㍻㍼㍽㍾㍿㏀㏁㏂㏃㏄㏅㏆㏇㏈㏉㏊㏋㏌㏍㏎㏏㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿㐀㐁㐂㐃㐄㐅㐆㐇㐈㐉㐊㐋㐌㐍㐎㐏㐐㐑㐒㐓㐔㐕㐖㐗㐘㐙㐚㐛㐜㐝㐞㐟㐠㐡㐢㐣㐤㐥㐦㐧㐨㐩㐪㐫㐬㐭㐮㐯㐰㐱㐲㐳㐴㐵㐶㐷㐸㐹㐺㐻㐼㐽㐾㐿㑀㑁㑂㑃㑄㑅㑆㑇㑈㑉㑊㑋㑌㑍㑎㑏㑐㑑㑒㑓㑔㑕㑖㑗㑘㑙㑚㑛㑜㑝㑞㑟㑠㑡㑢㑣㑤㑥㑦㑧㑨㑩㑪㑫㑬㑭㑮㑯㑰㑱㑲㑳㑴㑵㑶㑷㑸㑹㑺㑻㑼㑽㑾㑿㒀㒁㒂㒃㒄㒅㒆㒇㒈㒉㒊㒋㒌㒍㒎㒏㒐㒑㒒㒓㒔㒕㒖㒗㒘㒙㒚㒛㒜㒝㒞㒟㒠㒡㒢㒣㒤㒥㒦㒧㒨㒩㒪㒫㒬㒭㒮㒯㒰㒱㒲㒳㒴㒵㒶㒷㒸㒹㒺㒻㒼㒽㒾㒿㓀㓁㓂㓃㓄㓅㓆㓇㓈㓉㓊㓋㓌㓍㓎㓏㓐㓑㓒㓓㓔㓕㓖㓗㓘㓙㓚㓛㓜㓝㓞㓟㓠㓡㓢㓣㓤㓥㓦㓧㓨㓩㓪㓫㓬㓭㓮㓯㓰㓱㓲㓳㓴㓵㓶㓷㓸㓹㓺㓻㓼㓽㓾㓿㔀㔁㔂㔃㔄㔅㔆㔇㔈㔉㔊㔋㔌㔍㔎㔏㔐㔑㔒㔓㔔㔕㔖㔗㔘㔙㔚㔛㔜㔝㔞㔟㔠㔡㔢㔣㔤㔥㔦㔧㔨㔩㔪㔫㔬㔭㔮㔯㔰㔱㔲㔳㔴㔵㔶㔷㔸㔹㔺㔻㔼㔽㔾㔿㕀㕁㕂㕃㕄㕅㕆㕇㕈㕉㕊㕋㕌㕍㕎㕏㕐㕑㕒㕓㕔㕕㕖㕗㕘㕙㕚㕛㕜㕝㕞㕟㕠㕡㕢㕣㕤㕥㕦㕧㕨㕩㕪㕫㕬㕭㕮㕯㕰㕱㕲㕳㕴㕵㕶㕷㕸㕹㕺㕻㕼㕽㕾㕿㖀㖁㖂㖃㖄㖅㖆㖇㖈㖉㖊㖋㖌㖍㖎㖏㖐㖑㖒㖓㖔㖕㖖㖗㖘㖙㖚㖛㖜㖝㖞㖟㖠㖡㖢㖣㖤㖥㖦㖧㖨㖩㖪㖫㖬㖭㖮㖯㖰㖱㖲㖳㖴㖵㖶㖷㖸㖹㖺㖻㖼㖽㖾㖿㗀㗁㗂㗃㗄㗅㗆㗇㗈㗉㗊㗋㗌㗍㗎㗏㗐㗑㗒㗓㗔㗕㗖㗗㗘㗙㗚㗛㗜㗝㗞㗟㗠㗡㗢㗣㗤㗥㗦㗧㗨㗩㗪㗫㗬㗭㗮㗯㗰㗱㗲㗳㗴㗵㗶㗷㗸㗹㗺㗻㗼㗽㗾㗿㘀㘁㘂㘃㘄㘅㘆㘇㘈㘉㘊㘋㘌㘍㘎㘏㘐㘑㘒㘓㘔㘕㘖㘗㘘㘙㘚㘛㘜㘝㘞㘟㘠㘡㘢㘣㘤㘥㘦㘧㘨㘩㘪㘫㘬㘭㘮㘯㘰㘱㘲㘳㘴㘵㘶㘷㘸㘹㘺㘻㘼㘽㘾㘿㙀㙁㙂㙃㙄㙅㙆㙇㙈㙉㙊㙋㙌㙍㙎㙏㙐㙑㙒㙓㙔㙕㙖㙗㙘㙙㙚㙛㙜㙝㙞㙟㙠㙡㙢㙣㙤㙥㙦㙧㙨㙩㙪㙫㙬㙭㙮㙯㙰㙱㙲㙳㙴㙵㙶㙷㙸㙹㙺㙻㙼㙽㙾㙿㚀㚁㚂㚃㚄㚅㚆㚇㚈㚉㚊㚋㚌㚍㚎㚏㚐㚑㚒㚓㚔㚕㚖㚗㚘㚙㚚㚛㚜㚝㚞㚟㚠㚡㚢㚣㚤㚥㚦㚧㚨㚩㚪㚫㚬㚭㚮㚯㚰㚱㚲㚳㚴㚵㚶㚷㚸㚹㚺㚻㚼㚽㚾㚿㜀㜁㜂㜃㜄㜅㜆㜇㜈㜉㜊㜋㜌㜍㜎㜏㜐㜑㜒㜓㜔㜕㜖㜗㜘㜙㜚㜛㜜㜝㜞㜟㜠㜡㜢㜣㜤㜥㜦㜧㜨㜩㜪㜫㜬㜭㜮㜯㜰㜱㜲㜳㜴㜵㜶㜷㜸㜹㜺㜻㜼㜽㜾㜿㝀㝁㝂㝃㝄㝅㝆㝇㝈㝉㝊㝋㝌㝍㝎㝏㝐㝑㝒㝓㝔㝕㝖㝗㝘㝙㝚㝛㝜㝝㝞㝟㝠㝡㝢㝣㝤㝥㝦㝧㝨㝩㝪㝫㝬㝭㝮㝯㝰㝱㝲㝳㝴㝵㝶㝷㝸㝹㝺㝻㝼㝽㝾㝿㞀㞁㞂㞃㞄㞅㞆㞇㞈㞉㞊㞋㞌㞍㞎㞏㞐㞑㞒㞓㞔㞕㞖㞗㞘㞙㞚㞛㞜㞝㞞㞟㞠㞡㞢㞣㞤㞥㞦㞧㞨㞩㞪㞫㞬㞭㞮㞯㞰㞱㞲㞳㞴㞵㞶㞷㞸㞹㞺㞻㞼㞽㞾㞿㟀㟁㟂㟃㟄㟅㟆㟇㟈㟉㟊㟋㟌㟍㟎㟏㟐㟑㟒㟓㟔㟕㟖㟗㟘㟙㟚㟛㟜㟝㟞㟟㟠㟡㟢㟣㟤㟥㟦㟧㟨㟩㟪㟫㟬㟭㟮㟯㟰㟱㟲㟳㟴㟵㟶㟷㟸㟹㟺㟻㟼㟽㟾㟿㠀㠁㠂㠃㠄㠅㠆㠇㠈㠉㠊㠋㠌㠍㠎㠏㠐㠑㠒㠓㠔㠕㠖㠗㠘㠙㠚㠛㠜㠝㠞㠟㠠㠡㠢㠣㠤㠥㠦㠧㠨㠩㠪㠫㠬㠭㠮㠯㠰㠱㠲㠳㠴㠵㠶㠷㠸㠹㠺㠻㠼㠽㠾㠿㡀㡁㡂

(続) ④「飯面ラガーは、木に登れるんだよ」と登り始めると、⑤「ジレラの面めん登って登れるわよ」⑥「ふわとけだドレスから登るんだよ！」⑦「あ、そのドレス、でも少しだけ登って」⑧「あ！ 何処からオカミが来るわ！」そんな中、茂みの中に隠れていた、⑨「おめん見てくるから、絶対ドアを開けておめよ！」と言わねども、いざおん子の前にスーッと出ていく⑩⑪⑫⑬「コラー！」⑭⑮のどろろと流れては面白過ぎ!!

- ・ 朝の鈴が鳴ると、鉄匠はかみゆに（林）が（大）に「おいおい」して、ロープの方へ駆け
 て行く。大は鈴を耳にしていじり、止まって振り向き、また（林）の方を見て走って...
 ②が「声がかかると、おどろく」大は、おどって（林）は「おどろいて」走っていく。ロープの所まで
 着くと、（林）は「行くよ」といって、かみゆ。朝の集りから歌が聞こえてくる。③「今
 日の朝は、ふゆと桃の花。一輪に金へおね」（林）は、口をきいて、金へおねといふ。
 ④「かみゆ」大は「おどろいて」おどろいて、大は「おどろいて」おどろいて、大は「おどろいて」おどろいて...
 ⑤「林」大は「おどろいて」おどろいて、大は「おどろいて」おどろいて、大は「おどろいて」おどろいて...
 ⑥「林」大は「おどろいて」おどろいて、大は「おどろいて」おどろいて、大は「おどろいて」おどろいて...

- ・帰りの集りに大人が行くのが遅いのも(松)から。⑤(大)からも本当に楽しそうな笑い声が響いていい。各々先生が2人2人お話しする(松)は、まだ荷を代わらなければならなくて。⑤(大)は「先生」に頼りながら楽しんでいい。毎朝として育っていく力がすこしずつと成長。両方とも大人になるのに、うしろを見ていく気分が下。

- [illegible]

- 9月のくまの月。今日の喜多きは、標準箱作り時。㊦㊧が㊢と準備を以て、皆々
に見せる見本の箱ばかり作られた。㊦「これはウサギ箱だ」という。まだ「紫の箱だ
や」と㊧「これは五味子箱」くま参加者の方では南の箱はのびやかへ答へていた。
これくまの箱と一緒は喜多きの箱の箱には二入の出かきで行き来した。

- ・ (12) 「はて! 手をはたして!」と泣き声。 (13) と (14) が「あゝ」の叫びを両方から引く例合で
い初。 (15) 終始無言。 (16) 「はて! どうぞって言って! 順番!」と色々な言葉でやりあ
ひつ。二人は、一歩も譲らず。15~20分程引く例合い。 (17) かもう一つ「あゝ」を待
って来ると「あゝ!」と声がかかる。か「あゝ」が「あゝ」で「あゝ」とはなぬ例合。どちらが先
に降りて来たか、わからぬ。 (18) 「手はたして! 手はたして!」と大人に助けを求め
る。助け舟を出してはく見ると「お国」に力尽きて手は離れる。それから (19) か「あゝ」に集
ると (20) 「集るあゝ!」引く例合。 (21) 腹の「あゝ」で「あゝ」(22) 二人は「あゝ」(23) 「あゝ」
(24) 「あゝ」~、二人は力尽きて放りてい初。手は放して二人は放りてい初。

・清里中27'

- 始りの会は「今日から2日間 みんなが家族で」といふと、各々顔を合せて「はい」と笑っている。①は次の朝も「おれんが」三人に取らんか一人!と構える。
②「あー重い! あんな入れなやふらた……」と大それたユツの中のぬくまの事を言っている。③「おれんが」
④「おれんが」
⑤「おれんが」
⑥「おれんが」
⑦「おれんが」
⑧「おれんが」
⑨「おれんが」
⑩「おれんが」
⑪「おれんが」
⑫「おれんが」
⑬「おれんが」
⑭「おれんが」
⑮「おれんが」
⑯「おれんが」
⑰「おれんが」
⑱「おれんが」
⑲「おれんが」
⑳「おれんが」
㉑「おれんが」
㉒「おれんが」
㉓「おれんが」
㉔「おれんが」
㉕「おれんが」
㉖「おれんが」
㉗「おれんが」
㉘「おれんが」
㉙「おれんが」
㉚「おれんが」
㉛「おれんが」
㉜「おれんが」
㉝「おれんが」
㉞「おれんが」
㉟「おれんが」
㊱「おれんが」
㊲「おれんが」
㊳「おれんが」
㊴「おれんが」
㊵「おれんが」
㊶「おれんが」
㊷「おれんが」
㊸「おれんが」
㊹「おれんが」
㊺「おれんが」
㊻「おれんが」
㊼「おれんが」
㊽「おれんが」
㊾「おれんが」
㊿「おれんが」

- ・脱殻のあと。㊦と㊧が「やっほ、新しいごらん いっ食べられるの？」㊨「今度の
ついでの日いっ食べられるよ」㊩「うあーあの 揚げが おいしいんだよなあ」㊪「早く食
べたいなあ…」二人は遠くを見つめて つばを飲みこんでいるように見えた。
- ・「かっこいい剣を挿しに行く！」と森の奥へ行く㊫と一緒に行く㊬と㊭ ㊭「おちん
は かっこいい 剣、挿ってる！」と両手に二本 のり型 の剣を挿っている。㊬も一本長棒
を挿っていて㊬「いい音が出る」と言うので 皆が聞いてみると 確かに コンコンと高い音がして
㊫「ほんとだー いい音が出るから いい剣だね」おどろきながら㊬。森の奥へ行ったら
㊮の長靴が脱げてしまい ㊯「松崎、この おちん 助けてあげて〜」㊰「おちんは
怖いから」㊱「おきてー」と大げさに声をあげると ㊲は長靴を取ってあげ「おちん
は大丈夫から、もう一度長靴つか脱げた」㊳に今度は㊴がさっと取ってあげると
「びんざりにんかーびんざりんを助けて エライね」
- ・㊵(律)が二人で泥団ご作り。㊶「二人で何作ってるの？」㊷「トタンゴ〜！」㊸「そ
うなんだよ」おどろきに教えて ㊹「二本あるぞ！」(本当は一本だけしか同じのを何
回も教えたけれど) 所以 もう一本棒を挿えて来て「キエツバネ！」とトーンの音を出
している。㊺も入ってきて I danny Birthday to you. ~ ♪ を歌っていた。
- ・みんなが紅葉谷へ。㊻もびんざん崖に登って行きたい。一足先に登った㊼㊽が「リス
キーダ」と㊾㊿(果)を助けに行きたい。(大)咲は黙々と登っていく。リスキーダしていた
㊽が困り涙を流すと ㊾が「かっこいい かんぱん。かんぱん！」とおどろけたりする
そうと思ったり㊿も降りて手を貸していた。
- ・脱殻作業の日。㊽は最後まで見ていて、集中がたまらなくなると、最初に脱殻
し、お散歩に出かけ予定でした。が興味津々で脱殻の様子を見てしま
した。㊾の力強さは知らなかったが㊿も真剣な表情で力いっぱい足をふみ。
脱殻機がフル可動！そのお米が茹ぶ煮子に㊽も釘づけでした。みんな終
わるとほぐすが(はん)系、全身ががんばったことを感じました。
- ・田んぼで㊿(咲)の姿が見えず、探すと精肉店の方の一段上がった所に二人がしゃべ
っていました。よく笑って口には「シニ」のポーズ。二人で見つめ合っていました。

- 田んぼあぜ道のお散歩。(墨)が(皇)と(琳)を両手ごつたぎ。④のペースに合わせておから帰る
よう優しく声をかけつつ、(琳)「あ! あ!」と何か見つめ度なところ、(皇)もそのまねをして、
いねをしめて、手をひく(墨)はまるで和文エルのように「あ、ニハルホーあったわさ」ほら
歩いてどらん」と気持ちに寄り添いつつ、前には進みだして促している事がありました。しばらくかん
ぱったあと、(墨)「もう…自分で帰ってね〜!!」と言葉を残し先へ戻って行きました。
- お絵描きを始めました。(世)(理)(陽)。⑤「うーっ！はかちゃん、ずとお花上手〜!」
(達)「えんちだね。せーちゃんの方が上手だよ〜」⑥「私がお下りだよ〜」(陽)「こ
れでお下りだよ〜」⑦「えんちだね。私の方が下手だよ〜」
- 昨日木を切った×ザル作りをした続きをやりたいと(明)(後)がのびろに使い始めま
した。(修)(隆)も「作りたい!」と順番待ち。それから太い木を選んで切っていったのぞ
いて×ザルを作るのに体力と時間を使っている。やっているうちに体がほかほか。息づかいも
いいので4人が交番で1つの×ザルを作り出していった。たまに合間「やろうかな?」と気持
ちよく引き受けている。(明)「はい! こっちね。直したら」と進んでいる。(果)(礼)「のびろ
やりて〜!!」とずっと近くで見ている。(達)「もう少し大きくなるからね」と言われながら(礼)「じ
ゃんにたてたらね」と納得している様子。(果)は口をとがらせ「果ちゃん、大丈夫だよ〜」
- デザートのお団子作りを②が始める。(達)がずっと見ていた。(泰)(武)(明)(礼)もやってきた。
粉砂糖と混ぜ合わせる間は大人の仕事にしてもらった。水が足りなくなると(泰)「行くぞ、
どこぞと計量カップを持って来なさい。あー」歩きながら(泰)「もっと少し多めに取れば
いいじゃない?」と悩んでいた。(達)の手がバタバタと流れていた。(武)もやかんの火を流してしま
う。(明)もやってきた。最後になると、みんな「やった!」と手をたたいていた。(達)(武)は黙
々と水と砂糖を正確にお団子を作っている。(礼)は時々水を多く(達)「それね、ふたたび出た
よ!」みんなも水ばかりじゃなく。(達)「どうして作るのか。ふたたび入っちゃうよ。あと静かに
お願いね。」そういって、暖炉の(後)を置いてお団子の材料を集めてきてくれた。そして見守る(律)が
行って来たとき大活躍。お団子作りの横で立っていた。みんな「どうしてここにいるの?」
③「後林ちゃんを連れて来てお団子が後林ちゃんと一緒に食べてくれるからだよ」(明)「これだけ
いっぱいある。いっぱい食べたいんだけどね」(礼)(達)が「偉いわね。こんなにたくさん!」と声を出
す。そして(律)の涙は、少しずつ増えていく。みんなも「150g近
くの団子が出来た。これでまたお団子をもらえるよ。おいしく食べてね!」と喜んでくれていた。

